

たんぽぽ

「たんぽぽや いくたび踏まれて きょうの花」



八南小学校 校長室だより

令和6年 9月24日(火)

福祉実践教室を行いました

9月18日(水)に、豊川市社会福祉協議会のご協力により6年生を対象に福祉実践教室を行いました。「車椅子体験」「高齢者疑似体験」「点字体験」「会話のバリアフリー(手話)」「会話のバリアフリー(要約筆記)」「みんなでつくる支えあいのまち」「ガイドヘルプ」の7つの講座があり、各会場で子どもたちが希望する福祉のテーマについて学習をしました。

「車椅子体験」は体育館で行われ、子どもたちが車椅子に乗る役と押す役に分かれて、体験をしました。踏切版やマットなどで坂や段差をつくり、段差のある所は特に車椅子では移動しづらく、車椅子を使っている人にとって、移動がとても困難であることを、身をもって知ることができたようです。また、「高齢者疑似体験」では、特殊メガネやヘッドフォン型耳栓、肘・膝サポーターなどを付け、高齢になると、見えにくくなったり、聞こえにくくなったり、ひじやひざが曲がりにくくなったりすることを疑似体験しました。高齢になると、体の機能が低下し、通常の生活がしにくくなることがあります。子どもたちは、体験を通して、このような方の苦勞を知ることができたのではないのでしょうか。

子どもたちは、普段福祉について考えることはあまりないと思います。しかし、社会には様々な人たちが一緒に暮らしており、障がいのある方や高齢者などの中には、日常の生活に不便さを感じている方もいます。今回の福祉実践教室は、こうした人々の立場や気持ちを理解したり、自分ができることは何かを考えたりする貴重な機会になったと思います。



車椅子体験



高齢者疑似体験



点字体験

(参加した児童の感想)

〇目が見えないことは、とてもこわくて、白杖を使って一人で教室から2階の渡り廊下まで行くのは、どこかにぶつかりそうで大変でした。その後、二人一組で階段を上ったり、渡り廊下を歩いたりしました。ガイドがあると、一人の時と違って安心感がありました。この経験で、目が不自由なことは、想像以上に大変なことがわかりました。
(ガイドヘルプ参加児童)

〇人間は難しくてややこしい日本語をどうやって覚えているのかなと思っていました。でも、この福祉実践教室で、人間は家族の会話などを聞いて、日本語を覚えているということがわかりました。なので、人間は耳が不自由だととても大変だなと思いました。耳が不自由な子などのために使える、しゃべった日本語をすべてスマホやタブレットの画面に写してくれるアプリがとても便利だと思いました。耳の不自由な人などに寄りそうものが身の回りにたくさんあることを知りました。要約筆記は難しい手話を覚えなくていいので、便利だと思いました。
(要約筆記参加児童)

学校公開日(10月1日(火)~10月3日(木))

以前、お知らせした通り、10月1日(火)~10月3日(木)(1~4限)を学校公開日とします。この期間であれば、いつ学校に来ていただいて、子どもたちの様子を見ていただいても構いません。ただ、行事や授業参観とは違い、あくまでも普段の学校の様子を見ていただくこととなりますので、テストをしていたり、ずっとプリントに取り組んだりする授業もあるかもしれません。場合によっては、時間割を変更することもあります。この期間は、自由に学校に出入りできることとなりますので、恐れ入りますが、必ず「保護者確認証」を着用していただき、教室に行く前に一度、職員室にお立ち寄りください。そこで、名簿にお名前の記入をお願いします。普段の学校の様子は、なかなか見る機会はありませんので、もしもご都合がつくようでしたら、ぜひ、ご来校ください。